

2022 全国技術部会 zoom 会議議事録

開催日時：2022年11月2日(火) PM7:00～PM9:00

参加者：荻原(副会長) 岡田(教育局長) 野瀬(技術部長) 赤木(デモ) 五十嵐(北海道)
畠山(東北) 森(関越) 福島(関東) 池田(関西) 横田(新潟) 千木良(群馬)
関根(埼玉) 本田(千葉) 吉越(神奈川) 森田(京都) 明星(大阪) 辻本(和歌山)
村原(兵庫) 以上18名

議題

1. アンケート結果について：野瀬

1) 昨年のシーズンテーマの伝達で苦労した点、困った点はありませんでしたか

2) シーズンテーマ伝達で工夫した点がありますか

成果：前半の捉えが良くなった。足場を作る重要性を理解できたなどの意見が寄せられた。

ターン中のポジションの再確認ができた。後傾の改善に有効。

運動動作としてOKターンが有効な練習と感じた。

改善点：「足場を作る」「前に出る」「谷回りターンにつなげる」それぞれの動作がぶつ切りになってしまい連動性を伝えることが難しい。講師側に工夫が必要。

足場を作ることを理解させることが難しい。

明星(大阪) 前に出る前の動作(切り替えゾーン)の解説が必要ではないか？

野瀬(部長) ズレている板のズレを止めることが重要になる。加速している板に遅れないように前に出ることが必要。

赤木(デモ) 切り替えで山側にたってしまう。

野瀬(部長) 山側にたってしまう大きな要因は谷側に荷重できていないから。

3) 受講者の理解度はどの程度でしたか

概ね理解できていたと感じる。良好な反応であった。

バリエーションが多く一貫性がないという意見があると同時に、いろいろなことができて良かったとの意見もあった。良いほうにとらえていく。

4) 今年の中央研修会座学用動画はいかがでしたか

山回りで加速させて谷回りで減速させる。教程と差異があるとの意見もあるが、山回りでは減速してしまうから加速させる。谷回りでは加速してしまうから減速させる。等速で滑走することが目標となる。

運動要素はプルークもパラレルも一緒になる。秋の技術部会で確認する。

千木良(群馬) プルークボーゲンにおいて荷重の方向が分からない人が多く結果板を回してしまう。ターン中ではプルークもパラレルも運動要素は変わらないと伝えることが重要となる。板を回してしまうことそこからなかなか卒業できない。

- 野瀬(部長) 山側に荷重をかけずに進行方向に荷重してしまう事は多くの人が陥りやすい。谷回りターン技術を求めているのに腰を回してしまうとそこが無くなってしまう。プルークにおいて山側に荷重をかけることが大切になる。身体を回す癖がある人はそこから先にいけなくなってしまう。
- 岡田(局長) 切替で前にいくには必ずズレを止めることが必要になる。ズレを止められない限り、そこから何もできなくなってしまう。ズレを止める技術を深く学んだ方が良いと思う。
- 森田(京都) 映像の中で運動動作として分かりやすかった。しかしズレを止める動作として角付けを強めることに繋がる事には疑問を感じる。ターンの後半において角付けが強すぎると板が回り過ぎてしまい、次のターンに入り難くなってしまう。ズレは進行方向に対して迎角ができる事が要因。ズレを止めるには進行方向に対して板をまっすぐにすれば良いのではないかな？
- 野瀬(部長) ターンマキシマムではしっかり角付けをして、それ以降は角付けを緩ませていく局面になっていく。ターンゾーン後半のターンマキシマムでズレを止めてしっかり足場を作ることが重要になってくる。ズレとキレのメリハリが大切。
- 吉越(神奈川) プルークボーゲンと初歩の平行ターンでは谷脚の運動要素は異なってくるのではないのか。初歩の平行ターンでは斜滑降を学んだ事により谷側に足場を作れるようになり運動方向が明確になったことで外側に押し出せるようになるのではないだろうか。教程カリキュラムという初歩滑走の段階では押し出すことは意識しないで、初歩の平行ターンの段階になってしっかり山側に押し出せるようになるように段階を踏む方が伝えやすいのではないだろうか。谷側にしっかり足場があるからこそ山側に押し出せる。
- 野瀬(部長) プルークボーゲンの段階でもしっかり山側に押し出す事が大切。プルークボーゲンと初歩の平行ターンでは押し出す量は変わってくるが押し出す方向は変わらない。方向があっていれば次の段階に進める。
- 吉越(神奈川) 押し出す方向を重視するのであれば、そこに導く為に谷脚の足場を支えるように段階的に指導していくことが必要。
- 赤木(デモ) 角付けを強めてズレを止めるために骨盤からしっかり押すというイメージで良いのか。
- 野瀬(部長) 感覚的な事なので一概には言えない。大切なのは外脚の上に骨盤があるということ。いわゆる腰が外れない滑り。
- 森田(京都) 角付けには股関節の内旋外旋の動きが重要になる。外脚の角付けには股関節からの内旋が必要になってくるので、それを使えるようになるような指導が必要。
- 野瀬(部長) 内旋外旋は大切で重要な技術だが教程ではあまり触れていない。今後技術部の中で議論を深めて意見集約をして統一見解を示していきたい。

五十嵐(北海道) ターン後半に足場を作る事に苦労した。緩斜面の初歩の平行ターンまでは何とかなるが、斜度がきつくなったりベーシック平行ターンになると途端にできなくなる。角付けの強め方を知りたい。

野瀬(部長) 個人的な見解としてスキーの技術力はズレとキレの自在性にある。初歩の平行ターンでは左右の動きだけで対応できるが、ベーシックになるとそこに上下の動きが入ってくる。上下の動きが入ってもしっかりと角付けができるように理解して練習していくことが大切。

赤木(デモ) ズレとキレの自在性を表現するには真下への横滑りが最適。

荻原(副会長) ズレを止められない人の多くは外腰が外スキーについていってしまうから。内脚荷重の横滑りからの展開が効果があった。外脚へは荷重をかけられるが内脚にも荷重をかけられる重心コントロールが重要。腰が外スキーについていってしまうと内脚が使えないスキーヤーになってしまう。横滑りをもう一度見直してほしい。ズレてしまう横滑りとズラす横滑りを理解してもらう。

野瀬(部長) 腰が外れない滑りを理解する。雪上でしっかり検証していきたい。

荻原(副会長) 洗練の平行ターンでは内脚の小指側のエッジがしっかり雪面をキープした中で外スキーを押し出していくことが課題。

野瀬(部長) 秋の部会前に技術論で不安がある方は技術部員を通して質問状を書いて頂ければ対応する。

2. 次世代技術部員・デモの発掘、育成について：岡田

1) 次世代技術部員

現在指導員の公認資格者が右肩下がりで大きく減っている。

2012 年から現在に至るまで30%以上の減少になる。

技術部員が選出できない県や 10 年間メンバーが変わらない県も多い。新陳代謝が必要

2) デモの発掘、育成

デモ選での参加者数は変わらないが STC の参加者が大きく減っている。

現役の全国デモは 1 名のみなのでデモの数を増やしていきたい。

技術リーダーの人材の発掘が重要であり、待ちの姿勢ではなく積極的に発掘していく。

2023.03.04-05 全国デモを目指す合宿を志賀高原で開催する。参加費は無料。講師は野瀬技術部長。

技術部員が率先してデモ選に参加して、尚且つ人材の発掘も率先して行う。

デモ選のジャッジは荻原、岡田、野瀬に固定。

北海道で今シーズン STC を開催する。ゆくゆくは北海道でもデモ選の開催を目指す。

次の世代に交代できるような体制作りが技術部の大きな課題になる。

3) 各県の状況

北海道：2名の有力者がいる。将来のデモの発掘を目指しスタートしている。

しかし北海道ではスケジュール的に難しいのではないかな。

野瀬：活動範囲を含めてサポートしていきたい。

東北：東北は高齢化してきて難しい。若い会員がいない。

新潟：若い会員が少なく難しい。

群馬：若い人材がいないが世代交代を模索している最中。

埼玉：会員、指導員の減少が止まらない。人材発掘は難しい。

栃木：他県と比べて若い人材は多い方だが技術はまだ及ばない。

5年先10年先を見据えて育成していきたい。

東京：東京から若い世代で新しい指導員を目指している人が何人かいる。

世代交代を目指していきたい。

神奈川：若い世代で活発なグループがあるので育てていきたい。

各県の裾野を広げることが人材発掘には必要となる。

関西：時間の都合で省略

野瀬(部長) デモ選の技術のハードルを下げることはできないが、参加までのハードルを下げることは可能だと思う。何か良い知恵があったら教えて頂きたい。

赤木(デモ) デモ選でも競技でも一緒だが参加を訴える方の熱意が重要になる。

森(関越) 全国競技会に出場している若い世代に、上手い選手がたくさんいる。彼らにデモや指導員として活躍する魅力を伝える熱意が必要。

吉越(神奈川) かつてデモに認定されていた人が続けていない事を、掘り下げて考えることが重要なのではないかな。活用しきれない現状がある。

岡田(局長) 前回の教程の時はデモに認定されると撮影兼合宿に参加できた。それが技術向上のモチベーションに繋がっていたが、今はそれがなくなっている。それに代わる何かを提供できれば良いのではないかな。

3. 教程改訂について：野瀬

時間の都合上省略。改訂についての詳細は昨年の部会の報告に書いてあるので、それを参照。技術部員は内容についてよく理解しておいてほしい。

4. 教程に出てこない用語について：吉越

1) 内向傾、内向傾ポジション

2) 外向傾、外向、外傾

3) 雪面抵抗

スキー協、技術部で使う言葉をなるべく一般の人にも理解できるようにすることが重要。

専門用語を使う場合でもそれが共通見解になれば議論が深まり理解も進みやすい。それが教

える側でも上手く展開しやすい。

野瀬(部長) 用語に関することは大切であるので、今後協議しながら回答できるようにしたい。
他に必要な用語があれば対応できるようにする。

5. 段階的な技術目標設定について：野瀬

到達目標(案)

- 1) 雪面抵抗プルークで谷回りターンができる
- 2) プルークで腰が外れない外脚荷重ができる
- 3) パラレルで腰が外れない外脚荷重ができる

こういった到達目標があった方が良いか皆さんに伺いたい。

荻原(副会長) 技術で段階的な技術目標というのは難しい。どこで線を引くかが曖昧になる。
バリエーションを追う事になってしまう。

福島(関東) STT の規定に近いものがあるが、これをやってしまうと難しくなってしまう、技術レベルを決めつけることになってしまうのではないかな。

森田(京都) 目安としてレベルアップを図る程度の捉え方で良いのではないかな。

横田(新潟) 全体を指導すると相対的には理解できるが部分的には欠落してしまうこともある。ある程度の目標があったほうが良いのではないかな。

岡田(局長) 技術を細分化することが難しい。あくまで流れが肝心。

池田(関西) 講習の中で段階を設定することは可能だが、全体の流れで設定するのは難しい。

荻原(副会長) 全体として段階を設定するのではなく、講師の裁量に任せた方が良い。

2022 年11月2日

書記：森 康夫